



【まことの改革と回復】

聖書本文:第二列王記23:1-3,24-25節

説教者:鄭南哲 牧師

(Rev.Jung nam-chul)

今週の暗唱聖句:“あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。”(詩篇119:11節)

<1.列王記の背景>

今日我々を招待する本文は第二列王記23章です。列王記という聖書は名前のおりにいろんな王たちに関する記録です。列王記は1,2で分けられています。第一列王記はソロモンの即位と統治、そしてイスラエル王国の分裂について記録されています。だいたい列王記をソロモンの統治と王国の分裂、そしていろんな王たちの業績が記録されている聖書だと思っていますが、この聖書はその時代の霊的堕落と道徳的に滅んでいく様子が記録されています。その一番の理由は背教と偶像崇拜でした。列王記では当時王たちの統治と私生活までこまかく記録していますが、それは同時に神様の統治の完全性と御国の永遠性を表そうとする意味があります。

第二列王記は分裂した北イスラエルと南ユダ王国の王たちの業績が記録されています。王国が分裂した後、北イスラエルのアハシヤ王からサマリアの陥落までの北イスラエルの歴史とエルサレムの陥落と南ユダの滅亡までの歴史が記録されています。

ソロモンの死後、イスラエル王国は分裂しました。分けられた北イスラエルの王朝の期間は153年であって王たちはみなで19人でしたが、すべてが悪をおこないました。南ユダの王はみなで20人でしたが、この中で8人は良い王たちでした。南ユダの王朝の期間は389年でした。

単なるイスラエルの王らの歴史だけではなく王たちの信仰的な評価まで書かれているのが列王記です。王が信仰によって正しく、民を治めたのかそれとも悪い道を歩んだのかを話しているわけです。ある王を‘悪い’もしくは、‘良い’とする基準を南ユダの場合はダビデ王を基準に、そして北イスラエルの場合はヤロブアムの犯罪行為を基準にしました。‘悪い’という評価は以前信仰の人々の信仰と従順の生活から離れたという意味です。国の統治者が犯罪行為から始まったと言うのは、時代が過ぎれば過ぎるほど、さらに大きな罪が犯されることを示してくれます。

そう言うわけで、“彼は、主がイスラエル人の前から追い払われた異邦の民の忌みきらうべきならわしをまねて、主の目の前に悪を行なった”(第二列王記21:2など)もしくは“ヨシヤのように心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従って、主に立ち返った王は、彼の先にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、ひとりも起こらなかった。”(第二列王記23:25)のような信仰的な評価がついてきたのです。

列王記ではイスラエルの王たちが主の前で悪を行なったという表現が38回も出ています。このように私たちもいつか神様の御前で自分たちの信仰と生き方がどうだったのか評価される時が来ると思います。みなさんは神様からどんな評価をされるとおもいますか？

今日聖書の本文でヨシヤ王についても信仰の判断がくだっています。

25節をみてください。“ヨシヤのように心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従って、主に立ち返った王は、彼の先にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、ひとりも起こらなかった。”

列王記では預言者たちが現れて、神様の御心を伝え、訓戒し、戒めています。列王記には12人の預言者たちの名前が出て、王たちの業績と一緒に預言者たちの働きも記録されています。

<2.本文の背景>

先週はソロモンが偶像崇拜する異邦の女たちを愛し、妻として、そばめとしてめとって、その結果偶像の神々がイスラエルの人々に染み込み始めたことと申しあげました。偶像崇拜と堕落はますます深刻になり、ソロモンが死んだ後、イスラエルは北と南に分かれてしまいました。そして、結局ホセア王のとき北イスラエルはアッシリアに滅ぼされてしまいました。(BC722)。

南ユダもあまり違いはありませんでした。北イスラエルが滅んでしまう事を見てもなんにも悟りませんでした。(第二列王17:18-20)南ユダも偶像崇拜がますますひどくなっていきます。

南ユダの最悪の王だったマナセ王(BC697-643)時代をたとえて見ると、第二列王記21章2-7節で、“彼は、主がイスラエル人の前から追い払われた異邦の民の忌みきらうべきならわしをまねて、主の目の前に悪を行なった。彼は、父ヒゼキヤが打ちこわした高き所を築き直し、バアルのために祭壇を立て、イスラエルの王アハブがしたようにアシェラ像を造り、天の万象を拝み、これに仕えた。彼は、主がかつて、「エルサレムにわたしの名を置く。」と言われた主の宮に、祭壇を築いたのである。こうして、彼は、主の宮の二つの庭に、天の万象のために祭壇を築いた。また、自分の子どもに火の中をくぐらせ、ト占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをして、主の目の前に悪を行ない、主の怒りを引き起こした。さらに彼は、自分が造ったアシェラ

の彫像を宮に安置した。主はかつてこの宮について、ダビデとその子ソロモンに言われた。「わたしは、この宮に、そしてわたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。」

<3. ヨシヤが王になった時>

祖父マナセ、父アモンを継いでヨシヤが王になった時も(641-609BC)偶像崇拜は蔓延になっていました。今日の本文にはこのときあった大切がことが記されています。第二列王記23章を読むとその当時の宗教的状況が分かります。4節を見ると、バアルやアシェラや天の万象のために器物を作っていたのがわかります。5節にはまだユダの町々やエルサレム周辺には香をたかせる高き所があり、バアルや太陽や月や星座や天の万象に香をたくものたちもいました。7節をみると、バアルとアシェラ像が個人の家にもあり、それだけではなくエルサレムの神殿にも置いてあるほどでした。主の宮の中には神殿男娼の家もありました。様々な偶像、太陽の神を拝み、バアルやアシェラ、モレクとグモスとミルコム神々もありました。

こんな時にユダの王になった人がヨシヤでした。幼い頃、父が亡くなって、彼は8歳に王になりました。彼は幼かったですが、22章2節の御言葉のとおり“彼は主の目にかなうことを行なって、先祖ダビデのすべての道に歩み、右にも左にもそれなかった。”

彼は31年間国を治めましたが、彼が王位に上がって18年、つまり彼が26歳の時あった出来事が先ほど一緒に読んだ本文の内容です。イスラエルの民が偶像の神々に拝むことに夢中になっていたのが、当然神殿に対する関心なんかありませんでした。悪い王たちが神殿の管理をないがしろにしていたので、宮の門が閉鎖(へいさ)されたり、神殿の一部は破壊されるところもありました。神殿にはほこりがつもりました。このような状況でヨシヤ王は大祭司ヒルキヤを呼び寄せて廃墟(はいきよ)になりそうな神殿を再建させます。ヨシヤ王は書記シャファンを呼んで大祭司ヒルキヤに送って神殿の修理のために集めたお金を計算させました。このように神殿を再建する中、大切な本を見つめます。それはモーセの律法の書です(モーセの5書)でした(22:8-9)。イスラエルの民が祭りのたびに読ませたのが、この神の律法の書でしたが、しばらくその書は読ませないまま放置されていたのです。当時はたとい文字があっても読めない人々も多かったわけですので、文書を公開的に読むことは本当に大切でした。

偶像崇拜の中で当然神の律法の書は読まずに、60年近く放置されていたのです。神殿は廃墟となり、律法の書は放置されたままでした。これが当時の状況でした。ヨシヤ王は律法の御言葉を聞いてイスラエルとユダの偶像崇拜の罪を悟られます。22章 11節をみてください“王は律法の書のことばを聞いたとき、自分の衣を裂いた。”なぜ王が自分の衣を裂き、悲しんでたのでしょうか？それは二つの理由のためです。一つは神様の御言葉に従わず、偶像を拝んだ罪を示されたからです。二つ目はその罪による神様の裁きの警告を聞いたからです。彼は耐えられない悲痛な心境で自分の衣を裂いたのです。“衣を裂いた”という意味は悲痛な心境を表す表現です。まことの回復と改革は悔い改めることから始まります。

23章になるとまず自分がみずから悔い改めたヨシヤ王は次には全イスラエル人を神殿に集めさせ、彼らに契約の言葉を聞かせます。23章2節をみると、“王は主の宮へ上って行った。ユダのすべての人、エルサレムの住民のすべて、祭司と預言者、および、下の者も上の者も、すべての民が彼とともにいった。そこで彼は、主の宮で発見された契約の書のことばをみな、彼らに読み聞かせた。…”まことの悔い改め、まことの回復は神様の御言葉を聞くことから可能になる事を覚えましょう。“あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。”(詩篇119:11節)

<4. ヨシヤ王の宗教改革>

ここでヨシヤ王の改革が行われます。それが23章4節以下に記録されています。これを“ヨシヤ王の宗教改革”と言われます。4節以下を読むと、バアルやアシェラや天の万象のために作られた器物をことごとく主の本堂から運び出させ、キデロンの野でそれを焼き尽くします。(それから、王は大祭司ヒルキヤと次席祭司たち、および、入口を守る者たちに命じて、バアルやアシェラや天の万象のために作られた器物をことごとく主の本堂から運び出させ、エルサレムの郊外、キデロンの野でそれを焼き、その灰をベテルへ持っていった。)

23章5節(偶像に仕える祭司たちを、また、バアルや太陽や月や星座や天の万象に香をたく者どもを取り除いた。)、偶像に仕えていた祭司たちや、バアルや太陽や月や星座や天の万象に香をたくものどもも取り除きました。7節では神殿男娼の家もこわしました。このように厳しく改革を実行させました。10節(彼は、ベン・ヒノムの谷にあるトフェテを汚し、だれも自分の息子や娘に火の中をくぐらせて、モレクにささげることのないようにした。))には、モレクにささげる忌み嫌う偶像崇拜を禁止させ、すべての偶像崇拜の祭壇と高きところをこわし(12節)、シドン人の忌むべきアシュタロテ、モアブのケモシュ、アモン人のミルコムのために築いた高きところを汚しました。(マナセが主の宮の二つの庭に造った祭壇を取りこわし、そこから走って行って、そして、その灰をキデロン川に投げ捨てた。13 王は、イスラエルの王ソロモンがシドン人の、忌むべき、アシュタロテ、モアブの、忌むべきケモシュ、アモン人の、忌みきらうべきミルコムのためにエルサレムの東、破壊の山の南に築いた高き所を汚した。)。大々的な宗教改革でした。この改革を行うのに6年もかかったということは、どんなに多くのところに偶像の祭壇があったのか分かります。

そして21節以下(21王は民全体に命じて言った。「この契約の書にしるされているとおりに、あなたがたの神、主に、過越のいけにえをささげなさい。))によるとヨシヤ王は神様の救いを記念する過ぎ越しのまつりをふたたび守らせました。この過ぎ越し

の祭りが守られなかったということは救いの神を忘れて生きていたということを意味します。

このようなヨシヤ王について **第二列王記23章 25節**でこのように評価します。

“ヨシヤのように心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従って、主に立ち返った王は、彼の先にはいなかった。彼の後にも彼のような者は、ひとりも起こらなかった。ヨシヤのように心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従って、主に立ち返った王は彼の先にはいなかった、これらすべての偶像をこわし、神様に礼拝を回復した王に対する評価でした。

<5. 真の改革はどうやって可能でしたか?>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! どうやってこのようなイスラエルの改革と回復が可能だったのでしょうか? **一つは神様の神様の御言葉(律法の書)をつかみ、聞かせたからです。**

ヨシヤ王が偶像崇拜の罪を悟り、異邦の神の祭壇をこわし、信仰の改革を押し切って実行できたのは神様の御言葉を聞くことができなので、なにが正しいのか、なにが問題なのかをすることができたのです。神様の御言葉が偶像崇拜の罪を教え、改革の根拠となってくださったからです。

愛する信仰の家族のみなさん! 我々の手にも神様の御言葉が与えられていますが、読まず、聞かずだと律法の書が神殿でほこりだらけになっているのと同じです。どんなに聖書を持ち歩いても神様の御言葉を読まず、聞かずだと閉じられた本に過ぎません。我々の生活に神様の御言葉が生きた御言葉となるためには我々がいつも御言葉にオープンになっていなければなりません。神様の御言葉のみが我々を生かし、新しく回復させることができることを信じましょう。イエス様を信じて5年、10年経っても神様の御言葉である聖書を一度も読まなかったなら、それは神様の御言葉が放置されていると言う意味です。神様の御言葉が我々の生活に生かされ、いつも御言葉に心を開くように心かけましょう。

二つ目は、即刻的な従順があったからです。ヨシヤ王は神様の律法の書を見つけ、その御言葉を聞いた後は、ためらわずに、即、従いました。**23章3節**で王は律法の書を見つけては民に読み聞かせ、“この書物にしるされているこの契約の**ことば**を**実行**することを誓った。”としました。これは御言葉に対する従順を意味します。私たちが正しい道が分かったら、即刻その道を歩まなければなりません。逆に正しくないことが分かたら、その道からすぐさま離れなければなりません。真理が何であるかが分かたらその真理のゆえに決しなければならぬのです。この即刻的な従順によって改革と回復が可能になったのです。

詩篇119篇の中

“私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。”(18節)

“私は心を尽くして、あなたに請い求めます。どうか、みことばのとおりに、私をあわれんでください”(58節)

“あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。”(72節)

“みことばのとおりに私をささえ、私を生かしてください。私の望みのことで私をはずかしめないようにしてください。”(116節)

罪には二つの特徴があります。一つは免疫性です。一度、罪を犯すと再び犯させます。罪を犯したからといってすぐ、なにかの裁きが下るわけではありません。だからこそ、免疫がついて同じ罪を繰り返すことになってしまうのです。

二つ目に罪の特徴は反復性です。罪に対する免疫ができるため同じ罪を繰り返して犯すことになります。今日のクリスチャンたちの問題は知らないからではなく、知っていても行わず、間違っていることなのにも関わらず、やめることができない不従順ではないかと思えます。

最後に、自らの悔い改めと覚醒です。

王であるヨシヤ自身がまず神様の御言葉に悔い改め、まず従ったため改革が可能でした。リーダー一人が正しく立たされていて、その影響力は民全体に影響を与え、共同体を変えさせたのです。指導者が正しく立っていれば神様の改革と回復は起こります。家のかしら正しく立てれば家庭が生き、家のかしら恵みに歩めば、その子供も影響を受けるのは当然です。まず家庭から神様の愛の律法を教えなければなりません。そうすれば、教会と社会を連鎖的に変える御業は起こるでしょう。何よりも我々に与えられている霊的権威をもって我々の家庭、教会を改革し回復させていきたいです。偶像崇拜の長い歴史の中でもヨシヤ王の改革と回復が長く記録されたのはこの御言葉をとおして我々の教訓を与えるためです。

願わくは、我々も我々に与えられた神様の御言葉を読んで、黙想し、御言葉通りにしたがって生きることにより、主の教会と家庭と自分の人生が改革され、回復されていく祝福がありますよう主の御名によって祝福します。アーメン!!!